

## 新入生を迎えることは



## 良き師との出会い

広島大学長 沖 原 豊

新入生諸君、入学おめでとう。受験勉強から解放され、大学入学の喜びをかみしめ、大きな期待に胸をふくらませていることと思う。

ところで、諸君は幼稚園、小学校、中学校、高等學校を通じて、これまで長年にわたり教育を受けてきた。昔から「教育は人なり」と言われているように、教育は、教師と生徒の間の人格と人格の触れ合いを通じて行われるものである。したがって、生徒が教師を尊敬し信頼する関係で日々の教育が行われているかどうかによって、現実の教育はきわめて大きく異なったものとなってくる。最近の中国の教育の変動が、それを如実に物語っている。

中国では、古来から「尊師重道」(教師を尊敬し、道徳を重んじる)が教育の基本とされてきた。ところが、文化大革命の時代に、既存の権威がすべて否定され、「造反有理」(反抗するには道理がある)のスローガンのもとに教師と生徒を対等に位置づけたことによって、教育が全国的に混乱したことは周知のとおりである。しかし、やがて文革が否定されるとともに、時の周恩来首相によって、新しく「尊師愛生」(教師を尊敬し、生徒を愛する)の重要性が強調され、教育の正常化が図られている。なお、こうした尊師思想の延長線上に、9月10日が「教師節」と定められている。

韓国では、5月15日が「教師の日」である。この日には、小学校から大学までのすべての学校で、師の恩を意味するカーネーションの花が教師に贈られる。昨年の「教師の日」に、盧泰愚大統領が小学校3年生の時の恩師・佐藤 彰夫妻(倉敷市在住)を青瓦台の大統領官邸に招待されたことは、今なお多くの人々の記憶に新しいところである。

アメリカでは、昔から子供が教師への感謝のしるしにリンゴを贈る習慣がある。また最近では、スペースシャトル「チャレンジャー号」の爆発事故で宇宙に散ったマッコーリフという女教師の死

を悼み、上院・下院合同決議により、一昨年の1月28日が「全米教師感謝の日」と定められ、全国民がその日を祝福するよう要請された。

ソ連をはじめとする社会主義諸国でも、教師の役割の重要性が認識され、「教師の日」が設けられている。ソ連の「模範生徒規則」の中に、「教師の仕事に敬意を払おう」と定められているのも、こうした教師を大切にする考え方のあらわれであると言えよう。

ところで、尊師という思想は決して古めかしいものではなく、今日の西洋の優れた自然科学者のなかにも、それを肯定する考え方を見られる。たとえば、1973年にノーベル医学生理学賞を受賞したオーストリアのコンラート・ローレンツ博士によれば、「人間は、自分の好きな人、しかも尊敬する人からのみ伝統を受け継ぐことができるようプログラミングされている」という。人は尊敬し信頼する教師から学んでこそ、本当に知識が身につき、善行が行えるようになるのである。

このように見ると、新入生諸君にとって、「良き師」との出会いは、きわめて大切なことである。では、良き師とは何か。それは、正しい意味での権威をもった教師である。この際、権威は決して権力ではないことに留意すべきである。中国の古言に「桃李もの言わざれども、下おのずから蹊をなす」という言葉があるように、権威ある人は、もの言わざして人を心服させるのである。というのは、権力が外からの拘束力であるのに対して、権威は内からの拘束力であるからである。正しい意味での権威は、教師のもつ学問的、人格的な卓越さに対して、生徒や学生が畏敬や尊敬の念を抱くところに生じてくるものである。

新入生諸君が、それぞれ良き師に恵まれ、充実した実り多い学園生活を送られるよう切望するものである。